

北海道防災会議地震火山対策部会 火山専門委員会資料

2006. 03. 28

06.03.21雌阿寒岳噴火報告

1. 火口位置および泥流*
2. 火口近傍観察から見た噴火推移**
3. 降灰調査***
4. 噴出物解析から見た噴火機構****

共同研究および協力

*: 国際航業

** : 道防災消防課, 北大地震火山センター

*** : 道立地質研究所, 札幌管区气象台

**** : 北大地震火山センター, 札幌管区气象台

北海道大学大学院理学研究科
地球惑星科学専攻

1. 火口位置および泥流

(1) 2火口域：

赤沼北西火口列と北西外壁火口列（仮称）

赤沼火口内の亀裂は地すべりの可能性？

北西-南東方向の割れ目系に支配されていると考えられる

(2) 泥流

・2列の泥流の分布

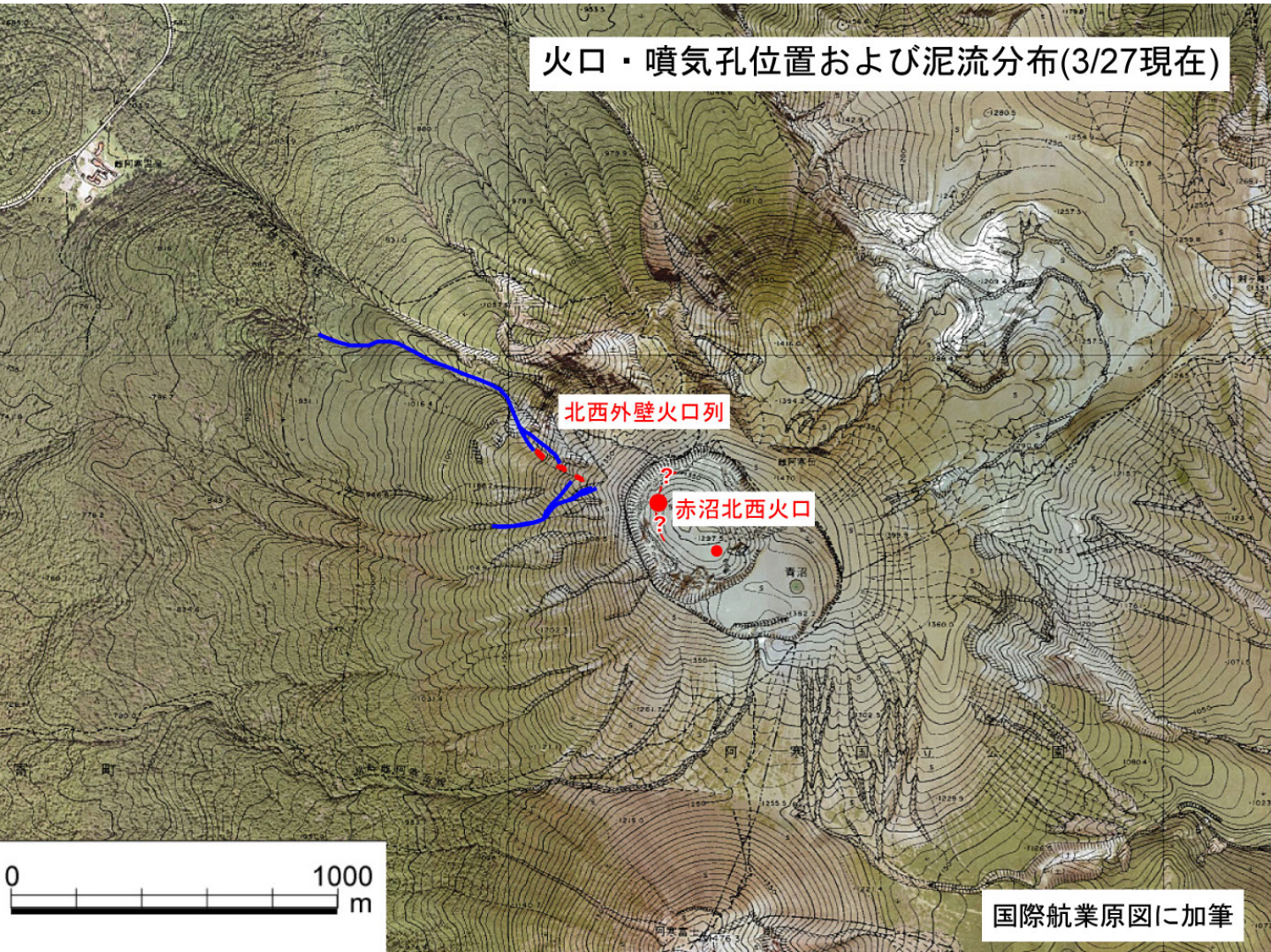
北泥流：低温熱水泥の流出により発生

21日の噴火時から発生し、24時間で約1kmまで成長・流下（3/22現在）

流路の下流は雌阿寒温泉にあたる

南泥流：尾根に堆積した火山灰が、温度のやや高い噴気で溶けた雪と流出（より小規模）

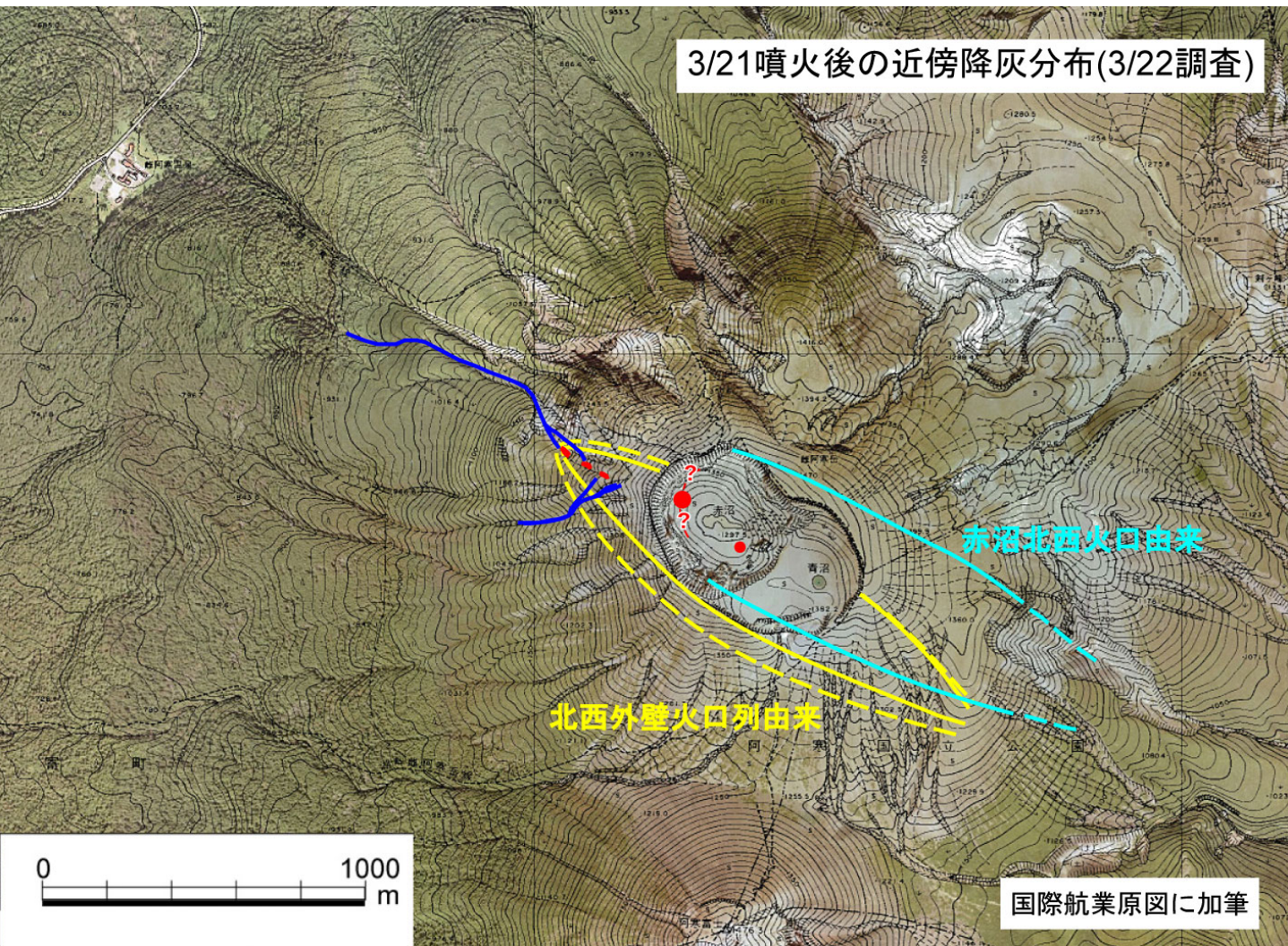
・22日以降の成長はない



2. 火口近傍観察から見た堆積物と噴火推移**

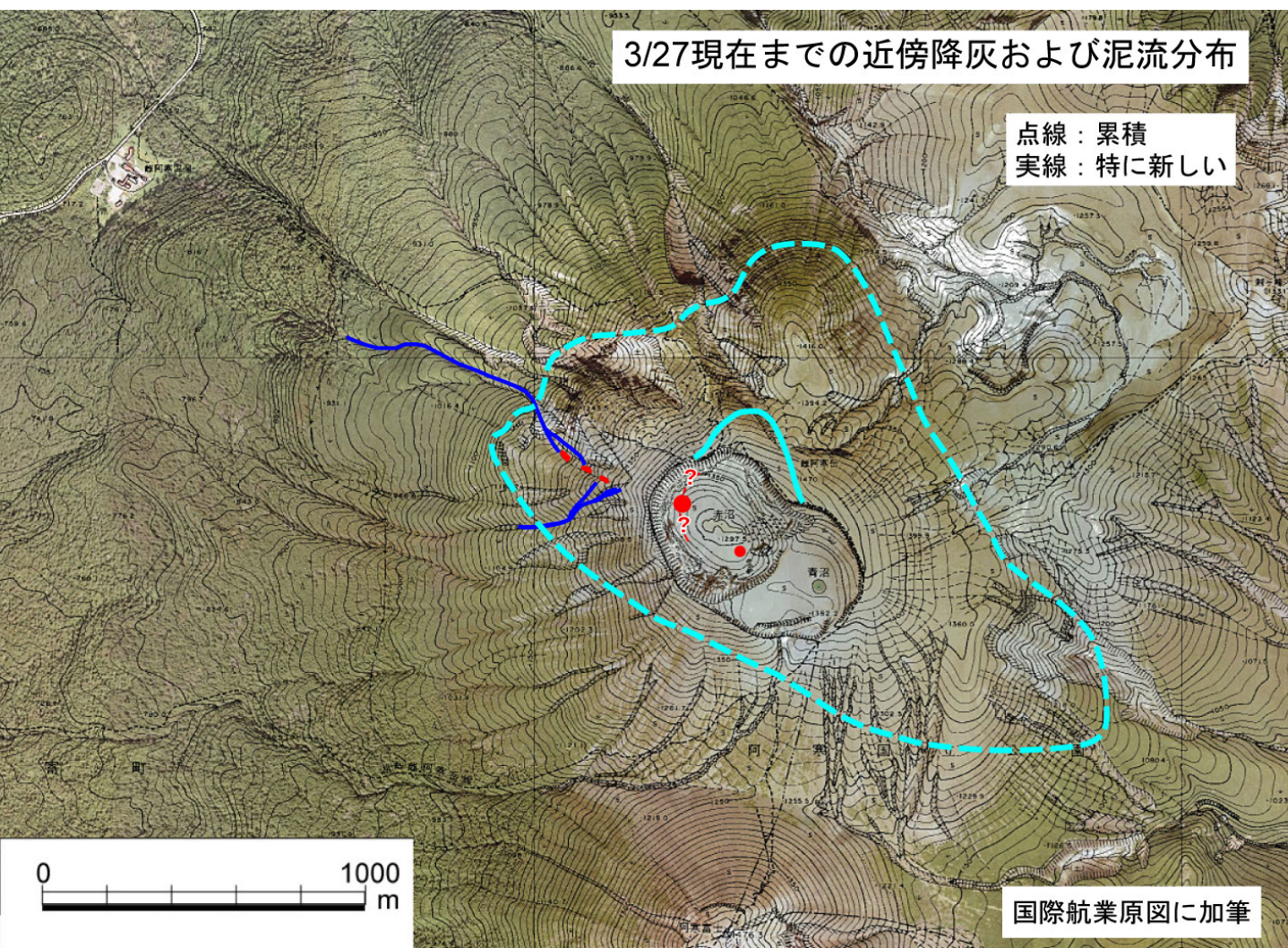
(1) 3/21の噴火

- ・赤沼と外壁火口列の噴出物は色調で区別できる(変質の程度差の反映)
- ・赤沼由来の降灰が、外壁火口列由来の降灰を覆っている。
- ・赤沼の方がより長時間噴火したか(噴出物を出した), 噴火開始に時間差。あるいはその両方
- ・火口内の堆積物はかなりの量がありそうであるが, 火口外では堆積物量は急減する(噴火が低温のため, 噴煙柱があまり発達しなかった)



(2) 3/22以降

- ・赤沼北西火口：
灰まじりの噴気を3/27現在でも放出
灰は黄灰色から暗灰色へ変化(火口拡大のためと思われる)
- ・北西外壁火口：
3/22以降は灰の噴出は低調

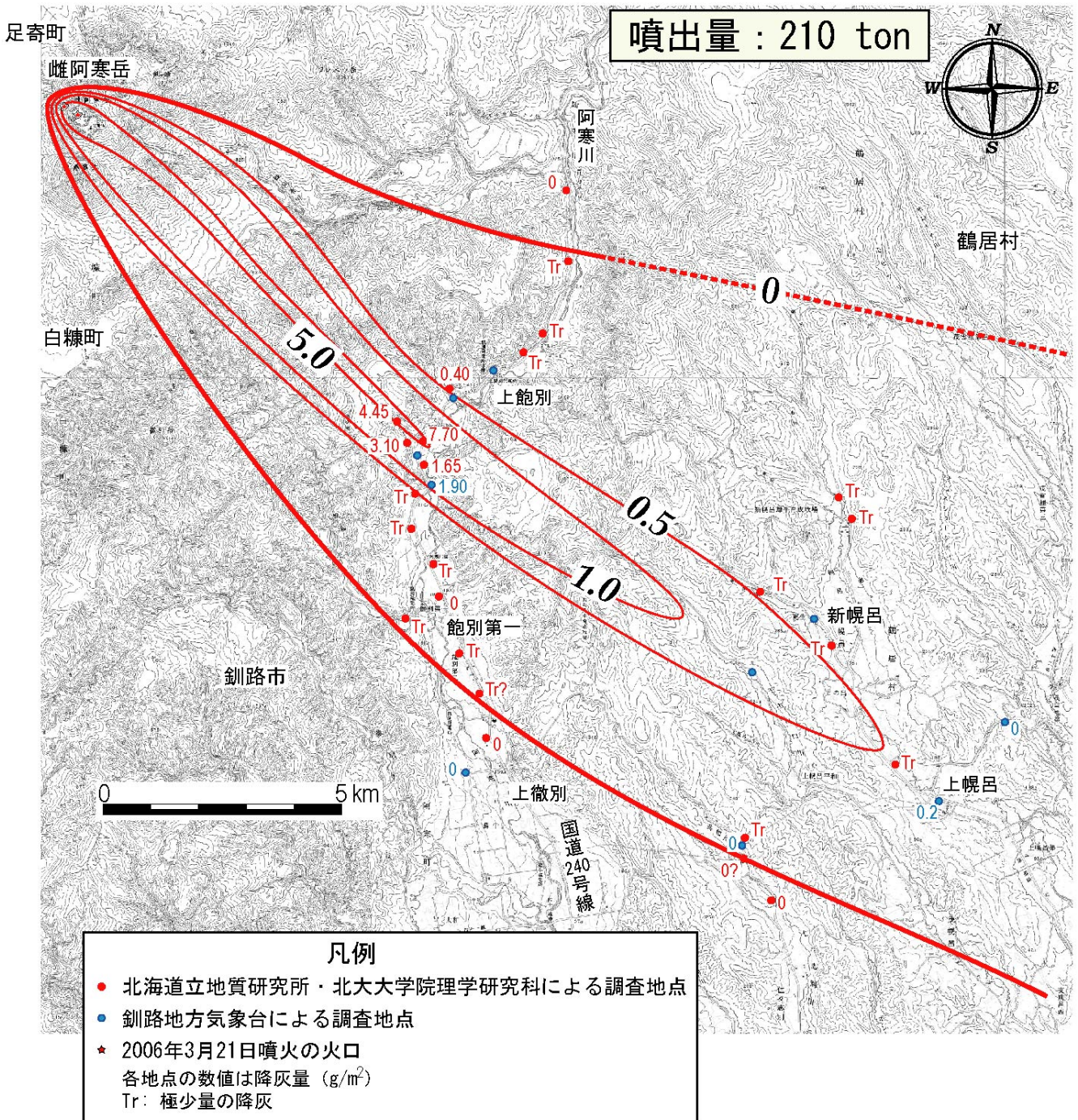


雌阿寒岳2006年3月21日噴火の降灰分布図

北海道立地質研究所・北海道大学大学院理学研究科・釧路地方気象台

現地調査 : 3/21~3/24

分布図作成 : 2006/3/25



背景地図は、国土地理院発行5万分の1数値地図（地図画像）を使用した

現地調査 : 北海道立地質研究所、北海道大学大学院理学研究科、釧路地方気象台
 試料処理 : 北海道大学大学院理学研究科
 等重量線図作成 : 北海道大学大学院理学研究科、北海道立地質研究所

4. 3/21噴出物解析から見た噴火機構

マグマ由来と考えられる物質(変質を受けていない火山ガラス片やガラスを含む火山岩片は認められなかった)→水蒸気噴火・爆発

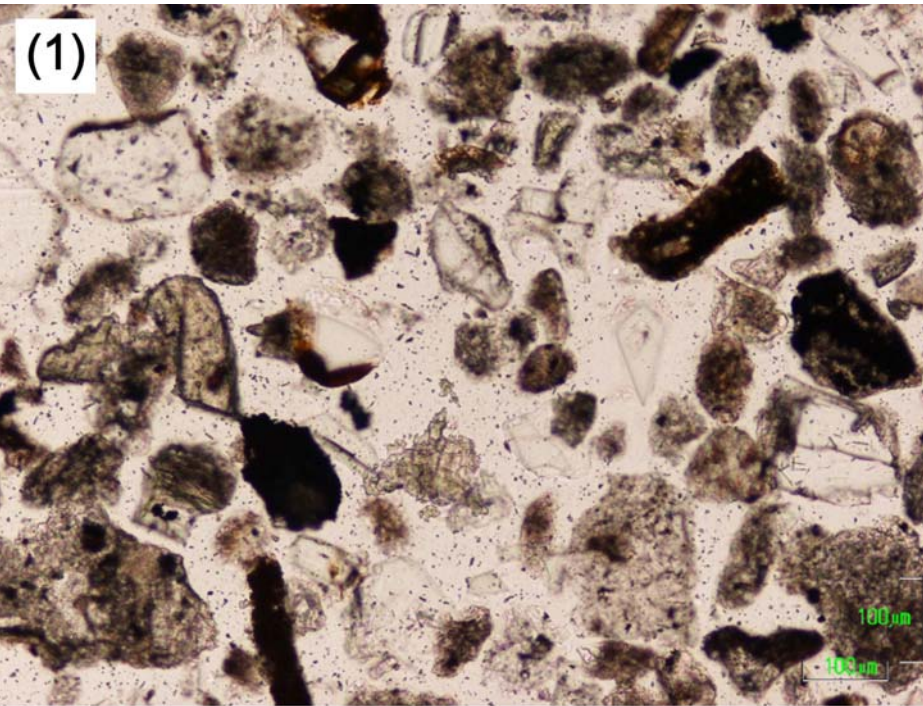


図. 火山灰の顕微鏡写真.
火山灰を水洗し, 微粒子を
除去している. (横幅は約
1mm)

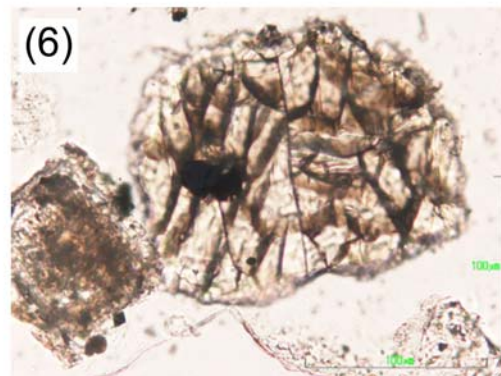
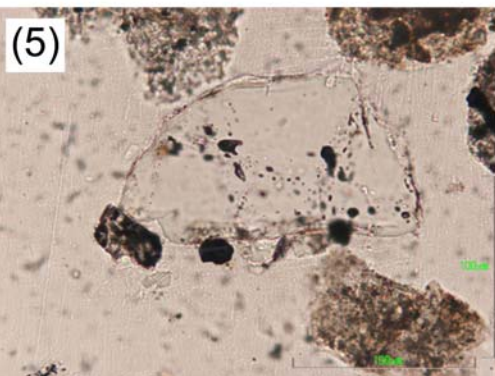
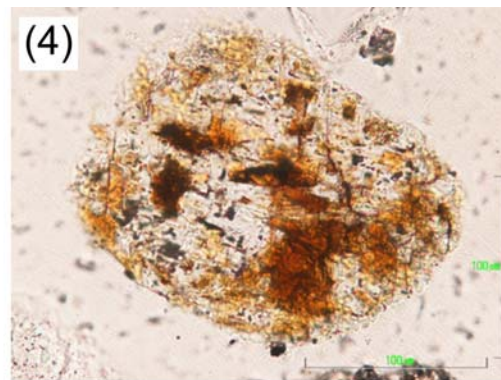
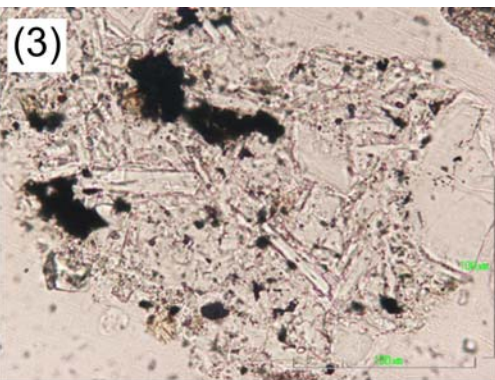


図. 代表的な構成物.
(3)火山岩片
(玄武岩質安山岩)
(4)変質火山岩片
(5)鉍物片(斜長石)
(6)鉍物片(輝石)

(火山灰は北大・笠原教授が「バンビの里」で採取)